

## 武雄・嬉野地区



### 7 釘町家住宅

【武雄市東川登町大字永野6793】

武雄市街より車で10分、国道34号線で嬉野方面へ外観のみ見学可

主屋は、くど造り草葺き屋根で、南面中央に式台、隣に脇玄関を設けた在郷武士の住宅である。鼠漆喰で仕上げられた座敷は竿縁天井が高く、格式ある造作となっている。安政6年(1859)の家相を示す古図面と、ほぼ変わらない造りで住宅及び南面の石垣が現存している。後背林等と一体となり、趣のある景観を造り出している。



### 8 志田焼の里博物館

【嬉野市塩田町大字久間乙 3073】

武雄市街より車で15分、国道498号を塩田方面へ  
TEL 0954-66-4640 水曜休館 入場料300円



志田の里は、庶民向け陶磁器の大量生産供給地であった。志田焼の里博物館は、全国でも稀な陶土製造から焼成まで全工程を一つの工場で大規模に行っていた志田陶磁器株式会社の工場跡である。昭和30年頃まで、火鉢等を中心かなりの生産量を誇っていたが、生活様式の変化等によりしだいに低下し、昭和59年に閉鎖された。これにより志田の窯業の一時代に幕を閉じた。



### 9 旧美野分教場

【嬉野市塩田町大字五町田乙4499】

嬉野市役所より車で5分  
内部見学は要連絡  
TEL 0954-66-9130(嬉野市)

旧美野分教場は、五町田尋常高等小学校の分教場として、昭和3年に建設された。建設には、美野の国有林を払い下げて用材を確保し、美野の大工31名が建築に携わった。地区では分教場の裏山を「学校山」と呼び、地域に密着した教育施設であった。豊かな自然の中に建つ分校の遺構として大銀杏や熊野権現神社とともに良好な景観を形成している。



### 10 池田家住宅

【嬉野市塩田町大字五町田乙4345】

嬉野市役所より車で5分  
内部見学は要連絡  
TEL 0954-66-2940(池田氏)

池田家は、代々教育・政治に尽力した地元の名士である。建物は、主屋と座蔵からなり、主屋は元茅葺き(くど造り)であったが、座蔵を建設した大正8年頃に改修されたと考えられている。式台玄関と座敷、前庭からなる接客空間は上質で、土間入口の吊戸など建築的魅力に溢れている。外観の様相は美しく在郷名士の近代和風建築の趣を呈している。

## 鹿島地区



### 11 中島酒造場

【鹿島市浜町乙2714】



浜川の河口に位置するこの地は、江戸時代、長崎脇街道である多良海道の宿場町として、「浜千軒」と言われるほど賑わっていた。豊かな多良岳の水により酒造業が栄え、現在も酒造場の主屋や土蔵が多く残り、通称「酒蔵通り」と呼ばれている。中島酒造は浜町の中で一番古い酒屋である。明治18年に建築された入母屋造妻入り土蔵造の主屋の入口には、馬を繋ぐ鉄の輪が残り、当時のたたずまいを今に伝えている。

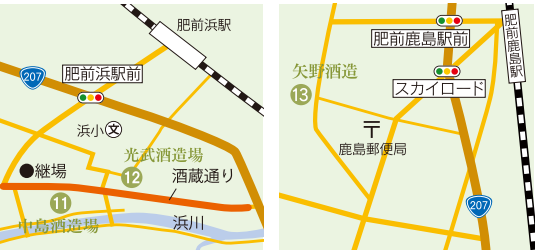


### 12 光武酒造場

【鹿島市浜町乙2421-1】



かつては造り酒屋、しょうゆ屋、かまぼこ屋など様々な商店が点在していた酒蔵通りは多良海道(長崎街道の脇街道)でもあった。光武酒造は、創業は江戸時代に遡ると伝えられ、現在も酒造りを営んでいる。明治14年建築の主屋は入母屋造妻入りの建物だが、痕跡から元は切妻造であったことが分かる。



肥前浜駅より徒歩5分 酒蔵通りの観光案内所「継場」で、ボランティアガイド(有料)有り  
酒蔵通りの両端に駐車場有り TEL 0954-69-8004(継場)



### 13 矢野酒造

NEW!

【鹿島市大字高津原字一本杉 3903-1】

江戸時代末期(寛政8年)に創業された矢野酒造の主屋等は、旧長崎街道多良往還(多良海道)の県道沿いに面して明治37年から昭和初期にかけて建てられた造り酒屋に関係する一連の建築物で、今もなお、その古いたたずまいを残しており、国の登録有形文化財にも登録(平成18年)されている。

特に主屋は、明治41年発行の「大日本酒造家名鑑」に写真が掲載されており、創建時の姿がうかがえる貴重な建築物である。



## 白石地区



### 14 縫ノ池

【杵島郡白石町大字湯崎字川津2463-1】

見学自由

縫ノ池は、昭和30年代前半、地下水を過剰に汲み上げたために湧水が止まり、長年水の溜まらぬ池となっていた。平成13年に約40年ぶりに湧水が戻ると、池には以前のように水が溜まり、旧来の風景を取り戻した。縫ノ池の水面には厳島神社境内の木々が映り、中央のメタセコイヤを中心に左右対称、水面に映り上下対称の景観を見ることができる。境内の木々は、夏は青葉、秋は紅葉し、冬は落葉して、四季折々の風情を醸し出している。湧水の復活を機に、地区では住民全員参加の「縫ノ池湧水会」を発足させ、自然環境保全活動などを行っている。



## 多久・小城地区

### 15 多久市西溪公園寒鶯亭

【多久市多久町1975番地】

施設利用は要予約

TEL0952-75-4827(多久市都市計画課)



多久町出身の炭鉱王 高取伊好によって、大正11年に図書館や西溪公園とともに村の公会堂として寄贈された建物で、木造和風公会堂建築の好例といわれる。当時は大規模な工事で、村民のための社会事業の側面もあったといわれている。寒鶯とは、春に備えて笹鳴きをする冬の鶯の意味で、「多久の人々も一人前の人物として世に出るため、この公会堂で学んでほしい」という伊好の思いが込められている。また、図書館に付設された赤煉瓦造りの書庫(現多久市郷土資料館書庫)は西溪公園内に現存し、寒鶯亭とともに、建設には杵島炭鉱の技師が携わったといわれている。



[関連施設]

国指定重要文化財である唐津市の「旧高取邸」は高取伊好氏の邸宅。



### 17 牛津町会館

【小城市牛津町牛津586-1】

牛津赤れんが館に隣接

施設利用は要予約

TEL 0952-73-8809(小城市)



牛津町会館は、九州の財界人として著名な田中丸氏の邸宅として大正年間に建てられたものである。内部は繊細な数寄屋風の木造建築物で、大きく南棟と北棟に分かれ、畳廊下でつながっている。庭園内には、九州の商王と呼ばれた田中丸善藏氏の銅像が建っている。隣接する牛津赤れんが館とともに、かつて「九州の浪速」と呼ばれ商人の町として活況を呈した商都牛津を彷彿とさせる建物である。



### 16 牛津赤れんが館

【小城市牛津町牛津586-1】

牛津駅より徒歩5分

催事時のみ開館

施設利用は要予約

TEL 0952-73-8809(小城市)



この地は、江戸時代には、長崎街道沿いの宿場町牛津宿として、また有明海に面した港町佐賀三津のひとつとして栄え、「一(市)は高橋、二(荷)は牛津」、「牛津 津でもち、駅でもち、町の栄えは店でもつ」とうたわれた。牛津赤れんが館は、玉屋デパートの前身である田中丸商店の倉庫として明治時代後期に建てられたものである。隣接する牛津町会館とあわせて商都牛津を象徴する建物である。